

## 2025年度 第5回マッチングワークショップ（MWS）実施報告

湘南工科大学 平山勉

本年度第5回のMWSは、ようやく秋の気配が感じられるようになった9月20日（土）に実施しました。天候が不安定で雨の懸念もあったものの、本降りになることもなく、当日は涼しさと湿度が共存する環境下での開催となりました。参加申し込みは47名でしたが、当日開始までに3名のキャンセルがあり、また、飛入り参加が1名あったため、最終的には45名での実施となりました。グループ編成は、基本を4人、または5人とし、会場を2つの教室に分けて実施しました。一方の教室は5人グループが1つ、4人グループが5つの計6グループ、もう一方の教室は4人グループが5つの体制で実施することとなりました。参加者には毎回ビブスを着用してもらい、ビブスの色と番号でグループ分けを行っております。最初は、同じ色のビブスの参加者がグループを作って着席してもらいます。参加者は受付後、サポート役の大学生スタッフの案内に従って受付時に指定されたグループへと着席し、大学生スタッフや評価担当教員らと交流しながら開始時間を待ちました。

### 【オープニング】

あらかじめ設定されたグループへの着席を確認した後、全体の進行担当（ファシリテータ）の指示により、ビブスの着用、およびニックネームを記載した名札シールの準備をしてもらい、ニックネームは、グループ内で呼んで欲しい名前を記載したシールを、ビブスのみんなから見やすい場所に貼ってもらいました。

開始時刻になると、進行担当から実施内容と進行の概略を説明したのち、これから行うグループワークの環境作りとして、約15分間の簡単なアイスブレイクを行いました。参加者の頭と身体の緊張がほぐれ、会場の雰囲気や和らいだところで次のグループワークへと移行しました。

### 【前半のグループワーク】

参加者は事前に提示されていた課題について、まずメンバーそれぞれが2分間で自分の考えを説明し、そのあと20分程度で意見交換を行いました。今回の課題は、生成AIの活用状況に関する調査結果（グラフ）を用い、企業活動に与えるメリット・デメリット、および私たちの生活が受ける影響について議論するものでした。本課題は、無自覚・無意識な生成AIの使用を見つめ直し、私たち自身の行動を相対化する点にもポイントがありました。事前に調べてきた情報を整理し、自身の意見を交えた発表が各グループで行われていました。発表時には、立ち上がって課題を提示したホワイトボードを指し示したり、持参資料を見せながら発表したりと、各参加者が工夫した発表を行っていました。また、聴き手となった参加者は、発表者の発言にしっかりと耳を傾けながら、メモシートに大事な点や気になった点を記録したり、時折発表者にも顔を向けて相槌を打ったりするなど、終始良い雰囲気の中で発表が進行していきました。発表後の自由に議論する時間では、話し足りなかった点を補足したり、気になった点を質問したりと、活発な意見交換が行われていました。

### 【グループワークのまとめと休憩およびグループ移動】

休憩を含めて10分程度の時間を設け、各参加者はグループで議論した内容を整理し、次のプレゼンテーションで話す内容の準備を行いました。多くの参加者が休憩時間中も席を

離れずにメモの整理をしながら、さらに気になる点について話し合う様子も見られました。

#### 【後半のプレゼンテーション】

このセッションでは、同じビブス番号の参加者を集め、新たなグループを編成しました。まず簡単な自己紹介と発表順を決めた後、前半のグループワークで議論した内容を各々2分間で順番に説明してもらいました。各発表後には2分間の質疑応答の時間を設け、意見交換を行ってもらいました。休憩時間中に各自がまとめた前半のグループワークの議論内容を、メモを参照しながら新しいグループメンバーに分かりやすく伝えるため、工夫を凝らした発表を行いました。鋭い質問に対しても、しっかりと応答する姿も多く、グループワークにおける「反射神経」の良さが印象的でした。また、時間進行に比較的余裕があったこともあり、さらに時間をかけてフリーディスカッションを行ってもらいました。

#### 【クロージングと振り返り】

最後に、参加者各自が前半のグループワークと後半のプレゼンテーションを振り返り、その内容を振り返りシートに記入してもらいました。また、簡単なアンケートへの回答も行ってもらい、書き終えた参加者から流れ解散となりました。このMWSが初対面のメンバー同士であったにもかかわらず、帰り際にはお互いに挨拶を交わす様子や、評価担当教員と和やかに会話する姿、希望している学科について教員に質問する参加者もいて、短時間でお互いに打ち解けていた様子が伺えました。

終了後に記入してもらおう振り返りシートでは、100点満点で自己評価をしてもらっています。満点を付ける人から厳しい点を付ける人まで実にさまざまですが、このMWSを通して心がけたこと、それがどの程度達成できたか、また反省点を見つけながらそれをどのように改善したら良いか、といったこの振り返りシートが目的としているところをしっかりと理解して書かれているものも多く見られました。振り返りで、他の人の発表や行動をあらためて整理することで、自分自身の改善点に気付くことができます。ただ単にワークショップに参加するだけでなく、自身の成果と課題を整理し、今後の取り組みを考察することの重要性を参加者が認識できたことは、大きな成果といえるでしょう。

このMWSというイベントは、以前から本学の「総合型選抜MWS方式」への出願要件となっていますが、本年度からは「学校推薦型選抜」への出願要件にもなりました。MWSを実施する目的は、現在の湘南工科大学での学修の基盤となる「アクティブラーニング」と同様の学び方を体験して、本学での学び方が自身に合っているかを確認した上で受験・入学することで、入学後のミスマッチを防ぐことを目指しています。本学ではMWSのような授業形式が「共通基盤ワークショップ」を中心に、様々な授業で取り入れられています。総合型選抜、学校推薦型選抜での出願に限らず、湘南工科大学を受験校の1つとして検討している皆さんには、是非このMWSに参加し、本学で4年間を過ごすことが自身に合っているかを確認する機会として活用することを推奨します。様々な大学がある中で、このMWSが大学選びの参考になればうれしく思います。